

## ICT 機器の利活用による教育の質の向上

千葉県立仁戸名特別支援学校

電話 043-264-5400

FAX 043-268-5082



### 研究のポイント

病気等で登校が難しい児童生徒に対し、様々な授業形態を意識して ICT を活用した一人一実践に取り組み、多様な学びのニーズに対して連続した学びを提供し、遠隔教育の充実と学習保障をした。

#### ■学校の概要

<https://cms1.chiba-c.ed.jp/nitona-sh/>

本校は「病気の治療」と「学校教育」を両立することができる病弱特別支援学校として、病気療養中の児童生徒に対し、切れ目ない学習支援をするために ICT を活用し、遠隔教育を推進している学校である。

#### ■研究課題

病気等で登校が難しい児童生徒への ICT を活用した学習内容に応じた学習保障及び児童生徒の在籍校での実施につなげるための支援の在り方について実践研究を行う。

#### ■研究の目的と方法

〔目的〕病気等で登校が難しい児童生徒に対し、ICT を活用した学習内容に応じた学習保障を行うために、遠隔教育の配信方法及び評価方法を検討し、在籍校で実施できる支援の充実を図る。

〔方法〕①各教育課程及び各教科の学習内容に応じ、様々な授業形態（対面、遠隔など）や在籍校での授業を意識し、一人一実践に取り組む。

②それぞれの実践について「実践のまとめシート」に記入し、共有する。

③成果と課題を整理する。

#### ■研究概要

(1)一人一実践から見えてきたこと

##### ①学習内容の充実

Teams 内の PowerPoint やタッチペンを活用することで、縦書きや数式の入力など、書く活動を保障することができた。また、Web カメラの活用により、遠隔授業での生物の観察や楽器、絵の指導が可能となり、細かな部分の観察や、着目する部分の明確化、児童生徒の様子を教師が確認しながら指導することができ、感染面や衛生面への対応にも効果的であった。遠隔授業時に画面共有することで、体育では、自作したバドミントンのボードゲームを児童生徒が遠隔で操作して、戦術を学習した。調べ学習では、児童生徒側の画面の共有により、児童生徒の様子を把握することができた。英語のリスニングの学習では、サウンド共有

をすることで、明瞭な音声を提供することができた。

#### ②学習機会の保障

Web 会議システムを活用することで、教室に来ることができない児童生徒に対し、授業を行うことができた。教科書の二次元コードによる動画教材の活用は、家庭学習と登校時の自立学習の充実につながった。また、プリントデータへの動画サイトの URL の貼付や、Teams 内の共有フォルダに動画をアップしておくことで、動画を見ながらの学習が可能となった。

#### ③学習の記録と評価

遠隔授業でも対面授業でも Teams 内の共有フォルダやファイルを使用することで、データを共有ファイルに蓄積しながら、多様な学びの場に対し、連続性のある学習を提供することができ、宿題のやり取りにも効果的であった。Forms によるクイズを活用することで、理解度を把握するとともに、記録を残すことができた。これらの蓄積されたデータは評価をする際に活用することができる。

#### ④その他

Web 会議システムを活用することで、様々な学習環境の児童生徒同士の交流を保障することができた。特性に応じた支援として、対面授業でも遠隔授業を取り入れることで、人との距離に敏感な生徒に対し、距離感を保った指導をすることができ、遠隔授業での音量を調節することで、音に敏感な児童生徒に対して支援することができた。また、進路活動では、健康状態の不安やコミュニケーションに苦手意識がある生徒も、自宅から事業所の見学を行うことができた。生徒による Forms のクイズ作成は、学習内容の定着を図ることや主体的な学習につながった。VR 機器の活用により、興味関心に働きかけることで自主的に質問をする場面につながった。ICT 機器を活用することで、文章の修正やレイアウトの変更、映像等の切り替えが容易であり、視覚的な理解や考えの整理への支援を行うことができた。遠隔授業を行う際にカメラや共有データを使用するなど、児童生徒の様子を把握する手段を多くすることで指導がしやすくなった。また、チーム指導や、複数の学習方法の検討が、機材トラブルの対応や、円滑な授業展開につながる。ICT 機器を繰り返し使用することで、円滑に活用することができ、機材の個数や種類の制限は、使用する時間や場所を工夫することで活用につながる。

#### (2) 成果

多くの教科で ICT 機器を活用した実践を行い、取り組みを共有することができ、遠隔教育の充実と学習保障を行いながら、学習データの蓄積と、多様な学びに対して連続した学びを提供することができた。

#### (3) 課題と今後に向けて

学習データの種類（写真、動画、音声）を充実させ、児童生徒が学習の成果物をクラウドへアップするなどクラウド活用を増やし、評価へとつなげていきたい。また、共有フォルダや動画データ等を活用し、学習保障の充実を目指す。ICT 機器を活用した実践を共有し、授業改善をしながら実践を積み重ね、更なる遠隔教育の充実と学習保障へつなげると共に、在籍校での実施につなげていきたい。

#### 関連資料

- ・『小・中学校等における病気療養児に対する ICT 等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取り扱い等について（通知）』令和5年3月31日 県特別支援教育課 教特第1311号通知
- ・『高等学校等における病気療養中等の生徒に対するオンデマンド型の授業に関する改正について（通知）』令和5年3月31日 県特別支援教育課 教特第1312号通知